

対象校No. 184

注4

学校コード F140110110592

注3

設置年度 令和 4年度

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更

注1

**事前相談**

注2

九州大学大学院 芸術工学府 芸術工学専攻 (博士後期課程)

**【事前相談】 設置に係る設置計画履行状況報告書**  
(改正前大学設置基準適用)

国立大学法人九州大学  
令和6年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名 芸術工学部事務部総務課

職名・氏名 カカリチョウカンカイ マキコ  
係長・新開 真紀子

電話番号 092-553-4407

(夜間) 092-553-4407

e-mail gkskoho@jimu.kyushu-u.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に  
( )書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、  
当該番号を記載してください。

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/mext\\_01087.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html)

4 対象校No.については、「【別紙】令和6年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、

該当番号を記載してください。

# 目次

大学院芸術工学府

＜芸術工学専攻（博士後期課程）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	11
4. 既設大学等の状況	12
5. 教員組織の状況	14
6. 附帯事項等に対する履行状況等	34
7. その他全般的事項	35

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

国立大学法人九州大学

## (2) 大学名

九州大学

## (3) 調査対象大学等の位置

〒815-8540 (819-0395)

福岡県福岡市南区塩原4丁目9番1号 (福岡県福岡市西区元岡744)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を ( ) 書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(イバシ ヲツウ) 石橋 達朗 (令和2年10月)		
学部長	(オト アキラ) 尾本 章 (令和3年10月)		
学科長等			

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を ( ) 書きで記入してください。

(例) 令和5年度に報告済の内容 → (5)

令和6年度に報告する内容 → (6)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載 (昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正) するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
- ・ 様式は、令和元年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合（令和6年度までの6年間）ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）」により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
大学院芸術工学府 芸術工学専攻 博士後期課程 博士（芸術工学） 博士（工学）	工学関係 美術関係 経済学関係 音楽関係	3 年	30 人	2年次 0 人 3年次 0 人 4年次 0 人	90 人	-	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」）の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。（学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。）

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		春季入学以外の 学期区分につ いて	収容定員 充足率	収容定員 充足率 (控除後)	備考
	春季入学	その他の学期														
A 入学定員	( ) [ ]	30人 [ ]	( ) [ ]	30人 [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	30人 [ ]	春季入学以外の 学期区分を設 ける予定	0.72倍	-						
志願者数	( ) [ ]	17 [12]	12 [6]	9 [5]	15 [9]	24 [11]	2 [2]									
受験者数	( ) [ ]	17 [12]	12 [6]	9 [5]	15 [9]	24 [11]	2 [2]									
合格者数	( ) [ ]	15 [10]	11 [5]	8 [4]	14 [8]	20 [9]	1 [1]									
B 入学者数	( ) [ ]	14 [9]	12 [6]	8 [4]	12 [7]	20 [9]	( ) [ ]									
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	-	-	0.86	0.66	0.66	0.66	0.66	0.66				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
- ・ ( )内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(( ))書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。
- ・ なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を中止している場合は、「春季入学以外の学期区分について」と「春季入学以外の学期区分を設ける年度」を選択し、にら
- ・ (春季入学以外の学期区分の設定を予定しない場合は「-」を選択)
- ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和7年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
- ・ なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
- ・ 「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
- ・ (5) - ② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次							14 [9] ( - )	12 [6] ( - )	8 [4] ( - )	12 [7] ( - )	20 [9] ( - )	- [ - ] ( - )	
2 年次									13 [8] ( - )	12 [6] ( - )	8 [4] ( - )	12 [7] ( - )	
3 年次											13 [8] ( - )	12 [6] ( - )	
4 年次													
計	- [ - ] ( - )	26 [15] ( - )	45 [25] ( - )	65 [34] ( - )									

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [ ]内には、留学生の状況について、**内数で記入**してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、**内数で記入**してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ **編入学生や転入学生も含めて記入**してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。**春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入**してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和4年度	26人	1人	令和元年度	0人	0人	
			令和2年度	0人	0人	
			令和3年度	0人	0人	
			令和4年度	1人	1人	除籍(1名)
令和5年度	45人	0人	令和元年度	0人	0人	
			令和2年度	0人	0人	
			令和3年度	0人	0人	
			令和4年度	0人	0人	
			令和5年度	0人	0人	
令和6年度	65人	0人	令和元年度	0人	0人	
			令和2年度	0人	0人	
			令和3年度	0人	0人	
			令和4年度	0人	0人	
			令和5年度	0人	0人	
			令和6年度	0人	0人	
合計		1人		1人	1人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)  
 ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)  
 ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。  
 ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。  
 ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{26} = \boxed{3.84} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{45} = \boxed{0} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{65} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

## 2 授業科目の概要

<大学院芸術工学府 芸術工学専攻（博士後期課程）>

### (1) -① 授業科目表

#### 【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
論文作成関連科目	リサーチ研修Ⅰ	1前①～②	2			23	35	3	11		3	
	リサーチ研修Ⅱ	1後③～④	2			23	35	3	11		3	
	小計(2科目)	-	4	0	0	23	35	3	11	0	3	
研究指導科目	リサーチプロジェクトⅠ	1前①～②	2			23	35	3	11		3	
	リサーチプロジェクトⅡ	2前①～②	2			20	35	3	11		3	
	リサーチプロジェクトⅢ	3前①～②	2			19	34	3	11		3	
	小計(3科目)	-	6	0	0	23	35	3	11	0	3	
合計(5科目)			-	10	0	0	23	35	3	11	0	3
卒業要件及び履修方法												
<b>【修了要件】</b> 博士後期課程に3年以上在学し、所定の科目を10単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、優れた業績を上げた者については、修業年限を短縮することができる。												
<b>【履修方法】</b> 論文作成関連科目4単位(リサーチ研修Ⅰ、Ⅱ)、研究指導科目6単位(リサーチプロジェクトⅠ～Ⅲ)、合計10単位以上を履修すること。												

#### 【令和6年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
論文作成関連科目	リサーチ研修Ⅰ	1前①～②	2			28	38	2	16		5	
	リサーチ研修Ⅱ	1後③～④	2			28	38	2	16		5	
	小計(2科目)	-	4	0	0	28	38	2	16	0	5	
研究指導科目	リサーチプロジェクトⅠ	1前①～②	2			28	38	2	16		5	
	リサーチプロジェクトⅡ	2前①～②	2			28	38	2	16		5	
	リサーチプロジェクトⅢ	3前①～②	2			28	38	2	16		5	
	小計(3科目)	-	6	0	0	28	38	2	16	0	5	
合計(5科目)			-	10	0	0	28	38	2	16	0	5
卒業要件及び履修方法												
<b>【修了要件】</b> 博士後期課程に定められた期間在学し、所定の科目を10単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、優れた業績を上げた者については、修業年限を短縮することができる。												
<b>【履修方法】</b> 論文作成関連科目4単位(リサーチ研修Ⅰ、Ⅱ)、研究指導科目6単位(リサーチプロジェクトⅠ～Ⅲ)、合計10単位以上を履修すること。												

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
論文作成関連科目	リサーチ研修Ⅰ	1前①～②	2			24	39	3	14		5
	リサーチ研修Ⅱ	1後③～④	2			24	39	3	14		5
	小計(2科目)	-	4	0	0	24	39	3	14	0	5
研究指導科目	リサーチプロジェクトⅠ	1前①～②	2			24	39	3	14		5
	リサーチプロジェクトⅡ	2前①～②	2			24	39	3	14		5
	リサーチプロジェクトⅢ	3前①～②	2			23	38	3	14		5
	小計(3科目)	-	6	0	0	23	38	3	14	0	5
合計(5科目)		-	10	0	0	23	38	3	14	0	5
卒業要件及び履修方法											
<p>【修了要件】 博士後期課程に定められた期間在学し、所定の科目を10単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、優れた業績を上げた者については、修業年限を短縮することができる。</p> <p>【履修方法】 論文作成関連科目4単位(リサーチ研修Ⅰ、Ⅱ)、研究指導科目6単位(リサーチプロジェクトⅠ～Ⅲ)、合計10単位以上を履修すること。</p>											

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
論文作成関連科目	リサーチ研修Ⅰ	1前①～②	2			23	38	3	12		6
	リサーチ研修Ⅱ	1後③～④	2			23	38	3	12		6
	小計(2科目)	-	4	0	0	23	38	3	12	0	6
研究指導科目	リサーチプロジェクトⅠ	1前①～②	2			23	38	3	12		6
	リサーチプロジェクトⅡ	2前①～②	2			20	38	3	12		6
	リサーチプロジェクトⅢ	3前①～②	2			19	37	3	12		6
	小計(3科目)	-	6	0	0	23	38	3	12	0	6
合計(5科目)		-	10	0	0	23	38	3	12	0	6
卒業要件及び履修方法											
<p>【修了要件】 博士後期課程に3年以上在学し、所定の科目を10単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、優れた業績を上げた者については、修業年限を短縮することができる。</p> <p>【履修方法】 論文作成関連科目4単位(リサーチ研修Ⅰ、Ⅱ)、研究指導科目6単位(リサーチプロジェクトⅠ～Ⅲ)、合計10単位以上を履修すること。</p>											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字の赤字**としてください。
  - ・ 履修希望者がいなかったために**未開講となった科目**についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
  - ・ **1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。**
  - ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。  
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
  - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「**臨地実務実習**」による授業科目には「【臨】」、「**連携実務演習**」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
  - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。  
その場合は、**新旧カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。**  
新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。  
(例:記載順)【認可時又は届出時】→【令和6年度(新)】→【令和5年度(新)】→【令和4年度】→【令和3年度】→【令和6年度(旧)】→【令和5年度(旧)】

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和4年度】

・助教の准教授への昇任、専任教員の変更、担当教員の退職、教員の新規採用、当該科目の教育体制充実等のため、「リサーチ研修Ⅰ」の専任教員数を「教授23、准教授35、講師3、助教11、兼任・兼任教員3」から「教授23、准教授38、講師3、助教12、兼任・兼任教員6」に変更した。  
・助教の准教授への昇任、専任教員の変更、担当教員の退職、教員の新規採用、当該科目の教育体制充実等のため、「リサーチ研修Ⅱ」の専任教員数を「教授23、准教授35、講師3、助教11、兼任・兼任教員3」から「教授23、准教授38、講師3、助教12、兼任・兼任教員6」に変更した。  
・助教の准教授への昇任、専任教員の変更、担当教員の退職、教員の新規採用、当該科目の教育体制充実等のため、「リサーチプロジェクトⅠ」の専任教員数を「教授23、准教授35、講師3、助教11、兼任・兼任教員3」から「教授23、准教授38、講師3、助教12、兼任・兼任教員6」に変更した。  
・助教の准教授への昇任、専任教員の変更、担当教員の退職、教員の新規採用、当該科目の教育体制充実等のため、「リサーチプロジェクトⅡ」の専任教員数を「教授20、准教授35、講師3、助教11、兼任・兼任教員3」から「教授20、准教授38、講師3、助教12、兼任・兼任教員6」に変更した。  
・助教の准教授への昇任、専任教員の変更、担当教員の退職、教員の新規採用、当該科目の教育体制充実等のため、「リサーチプロジェクトⅢ」の専任教員数を「教授19、准教授34、講師3、助教11、兼任・兼任教員3」から「教授19、准教授37、講師3、助教12、兼任・兼任教員6」に変更した。

【令和5年度】

・助教の准教授への昇任、専任教員の変更、担当教員の退職、教員の新規採用、当該科目の教育体制充実等のため、「リサーチ研修Ⅰ」の専任教員数を「教授23、准教授38、講師3、助教12、兼任・兼任教員6」から「教授24、准教授39、講師3、助教14、兼任・兼任教員5」に変更した。  
・助教の准教授への昇任、専任教員の変更、担当教員の退職、教員の新規採用、当該科目の教育体制充実等のため、「リサーチ研修Ⅱ」の専任教員数を「教授23、准教授38、講師3、助教12、兼任・兼任教員6」から「教授24、准教授39、講師3、助教14、兼任・兼任教員5」に変更した。  
・助教の准教授への昇任、専任教員の変更、担当教員の退職、教員の新規採用、当該科目の教育体制充実等のため、「リサーチプロジェクトⅠ」の専任教員数を「教授23、准教授38、講師3、助教12、兼任・兼任教員6」から「教授24、准教授39、講師3、助教14、兼任・兼任教員5」に変更した。  
・助教の准教授への昇任、専任教員の変更、担当教員の退職、教員の新規採用、当該科目の教育体制充実等のため、「リサーチプロジェクトⅡ」の専任教員数を「教授20、准教授38、講師3、助教12、兼任・兼任教員6」から「教授24、准教授39、講師3、助教14、兼任・兼任教員5」に変更した。  
・助教の准教授への昇任、専任教員の変更、担当教員の退職、教員の新規採用、当該科目の教育体制充実等のため、「リサーチプロジェクトⅢ」の専任教員数を「教授19、准教授37、講師3、助教12、兼任・兼任教員6」から「教授23、准教授38、講師3、助教14、兼任・兼任教員5」に変更した。

【令和6年度】

・准教授の教授への昇任、講師の准教授への昇任、助教の准教授への昇任、専任教員の変更、担当教員の退職、教員の新規採用、当該科目の教育体制充実等のため、「リサーチ研修Ⅰ」の専任教員数を「教授24、准教授39、講師3、助教14、兼任・兼任教員5」から「教授28、准教授38、講師2、助教16、兼任・兼任教員5」に変更した。  
・准教授の教授への昇任、講師の准教授への昇任、助教の准教授への昇任、専任教員の変更、担当教員の退職、教員の新規採用、当該科目の教育体制充実等のため、「リサーチ研修Ⅱ」の専任教員数を「教授24、准教授39、講師3、助教14、兼任・兼任教員5」から「教授28、准教授38、講師2、助教16、兼任・兼任教員5」に変更した。  
・准教授の教授への昇任、講師の准教授への昇任、助教の准教授への昇任、専任教員の変更、担当教員の退職、教員の新規採用、当該科目の教育体制充実等のため、「リサーチプロジェクトⅠ」の専任教員数を「教授24、准教授39、講師3、助教14、兼任・兼任教員5」から「教授28、准教授38、講師2、助教16、兼任・兼任教員5」に変更した。  
・准教授の教授への昇任、講師の准教授への昇任、助教の准教授への昇任、専任教員の変更、担当教員の退職、教員の新規採用、当該科目の教育体制充実等のため、「リサーチプロジェクトⅡ」の専任教員数を「教授24、准教授39、講師3、助教14、兼任・兼任教員5」から「教授28、准教授38、講師2、助教16、兼任・兼任教員5」に変更した。  
・准教授の教授への昇任、講師の准教授への昇任、助教の准教授への昇任、専任教員の変更、担当教員の退職、教員の新規採用、当該科目の教育体制充実等のため、「リサーチプロジェクトⅢ」の専任教員数を「教授24、准教授39、講師3、助教14、兼任・兼任教員5」から「教授28、准教授38、講師2、助教16、兼任・兼任教員5」に変更した。

- (注) ・ 2 (1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(記当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。  
・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。  
・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。  
・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
5 科目	0 科目	0 科目	5 科目	5 科目 [0]	0 科目 [0]	0 科目 [0]	5 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

### (3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
  - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

### (4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
  - ・ 該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

### (5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

--

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{5} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。  
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考					
(1) 校 舎 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体					
	校 舎 敷 地	2,273.413㎡ <del>2,264.620㎡</del>	㎡	㎡	2,273.413㎡ <del>2,264.620㎡</del>	借地及び区分見直し等 による変更(6)					
	運 動 場 用 地	196.820㎡ <del>196.368㎡</del>	㎡	㎡	196.820㎡ <del>196.368㎡</del>						
	小 計	2,470.233㎡ <del>2,460.988㎡</del>	㎡	㎡	2,470.233㎡ <del>2,460.988㎡</del>						
	そ の 他	73,435.182㎡ <del>73,838,349㎡</del> <del>73,867,450㎡</del> <del>73,902,583㎡</del>	㎡	㎡	73,435,182㎡ <del>73,838,349㎡</del> <del>73,867,450㎡</del> <del>73,902,583㎡</del>						
合 計	75,905,415㎡ <del>75,308,582㎡</del> <del>75,337,234㎡</del> <del>75,353,574㎡</del>	㎡	㎡	75,905,415㎡ <del>75,308,582㎡</del> <del>75,337,234㎡</del> <del>75,353,574㎡</del>							
(2) 校 舎	専 用	648,535㎡ <del>650,189㎡</del> <del>654,618㎡</del> <del>657,243㎡</del>	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体					
		657,243㎡	( ㎡)	( ㎡)	648,535㎡ <del>650,189㎡</del> <del>654,618㎡</del> <del>657,243㎡</del>	改修及び区分見直し等 による変更(6)					
(3) 教 室 等	講 義 室	346室 <del>347室</del> <del>346室</del>	演 習 室	359室 <del>363室</del> <del>352室</del>	実験実習室	114室 <del>115室</del> <del>114室</del>	情報処理学習施設	14室 <del>15室</del> <del>14室</del>	語学学習施設	4室 <del>3室</del>	改修及び用途変更による 見直し(6)
						(補助職員6人)			(補助職員3人)		
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称				室 数		令和5年5月以降の退職及び 採用による変更(6)				
	大学院芸術工学府 芸術工学専攻				8	7		室			
(5) 新設学部等の 名称	図 書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚資料	機械・器具	標 本	除却及び新規購入による 変更(6)				
	[うち外国書]	[うち外国書]	[うち外国書]	点	点	点					
	冊	種	種	点	点	点					
	冊	種	種	点	点	点					
大学全体	4,314,083 <del>(1,873,428)</del> <del>4,220,456</del> <del>(1,808,891)</del> <del>4,198,705</del> <del>(1,805,858)</del> <del>4,202,696</del> <del>(1,812,778)</del>	116,855 (72,393) <del>119,895 (75,592)</del> <del>76,869 (34,083)</del> <del>76,859 (34,117)</del>	40,049 (38,482) <del>43,119 (41,593)</del> <del>52,670 (52,653)</del> <del>51,507 (51,580)</del>	8,396 <del>8,324</del> <del>8,540</del> <del>9,784</del>	70 <del>36</del> <del>81</del> <del>97</del>	7,434,882					
	(4,314,083 <del>(1,873,428)</del> <del>4,220,456</del> <del>(1,808,891)</del> <del>4,198,705</del> <del>(1,805,858)</del> <del>4,202,696</del> <del>(1,812,778)</del> )	(116,855 <del>(72,393)</del> <del>76,869</del> <del>76,859</del> )	(40,049 <del>(38,482)</del> <del>52,670</del> <del>51,507</del> )	(8,396 <del>(8,324)</del> <del>8,540</del> <del>9,784</del> )	(70 <del>(36)</del> <del>81</del> <del>97</del> )	(7,434,882)					
計	4,314,083 <del>(1,873,428)</del> <del>4,220,456</del> <del>(1,808,891)</del> <del>4,198,705</del> <del>(1,805,858)</del> <del>4,202,696</del> <del>(1,812,778)</del>	116,855 (72,393) <del>119,895 (75,592)</del> <del>76,869 (34,083)</del> <del>76,859 (34,117)</del>	40,049 (38,482) <del>43,119 (41,593)</del> <del>52,670 (52,653)</del> <del>51,507 (51,580)</del>	8,396 <del>8,324</del> <del>8,540</del> <del>9,784</del>	70 <del>36</del> <del>81</del> <del>97</del>	7,434,882					
	(4,314,083 <del>(1,873,428)</del> <del>4,220,456</del> <del>(1,808,891)</del> <del>4,198,705</del> <del>(1,805,858)</del> <del>4,202,696</del> <del>(1,812,778)</del> )	(116,855 <del>(72,393)</del> <del>76,869</del> <del>76,859</del> )	(40,049 <del>(38,482)</del> <del>52,670</del> <del>51,507</del> )	(8,396 <del>(8,324)</del> <del>8,540</del> <del>9,784</del> )	(70 <del>(36)</del> <del>81</del> <del>97</del> )	(7,434,882)					
(6) 図 書 館	面 積	開 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		改修等による変更 (6)					
	46,365㎡	3,349席 <del>2,211席</del> <del>9,424冊</del>		5,389,889冊 <del>5,395,250冊</del> <del>6,262,932冊</del>							
(7) 体 育 館	面 積	体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要				大学全体					
	12,019㎡	野 球 場 1 面 陸 上 競 技 場 1 面									
(8) 経費の見積り 及び 維持方法 の概要	区 分	開 設 年 度	完 成 年 度	区 分	開 設 前 年 度	開 設 年 度	完 成 年 度				
	教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円				
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円				
	学生1人当り 納付金	第1年次 千円	第2年次 千円	第3年次 千円	第4年次 千円	第5年次 千円	第6年次 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要											

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。

・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の5月1日現在の数値を記入してください。

・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え直し修正するとともに、その理由及び報告年度「(6)」を「備考」に赤字で記入してください。

なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。

・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称		九州大学						収容定員充足率0.7倍以下の学科数	0	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	2
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		
共創学部					学士(学術)				平成30年度	福岡県福岡市西区元岡744	
共創学科	4	105		420		1.12	1.02				
文学部					学士(文学)					福岡県福岡市西区元岡744	
人文学科	4	151		604		1.14	1.09		平成12年度		
教育学部	4	46		184	学士(教育学)	1.12	1.08		昭和24年度	福岡県福岡市西区元岡744	
法学部	4	189		756	学士(法学)	1.08	1.04		昭和24年度	福岡県福岡市西区元岡744	
経済学部					学士(経済学)					福岡県福岡市西区元岡744	令和5年度から編入学定員変更(Δ10)
経済・経営学科	4	141		564		1.09	1.04		平成12年度		
経済工学科	4	85	10	360		1.13	1.08		昭和52年度		
理学部					学士(理学)					福岡県福岡市西区元岡744	
物理学科	4	55		220		1.20	1.12		昭和24年度		
化学科	4	62		248		1.13	1.07		昭和24年度		
地球惑星科学科	4	45		180		1.11	1.07		平成2年度		
数学科	4	50	5	210		1.13	1.09		昭和24年度	福岡県福岡市西区元岡744	
生物学科	4	46		184		1.09	1.07		昭和24年度		
医学部					学士(医学)					福岡県福岡市東区馬出2丁目1番1号	
医学科	6	105		651	学士(医学)	1.06	1.02	令和2年度	昭和24年度		令和2年度より入学定員変更(Δ1)
生命科学科	4	12		48	学士(保健学)	1.25	1.12	令和4年度			令和5年度より入学定員変更(Δ5)
保健学科	4	134		536	学士(保健学)	1.03	1.02		平成14年度		
歯学部					学士(歯学)					福岡県福岡市東区馬出2丁目1番1号	
歯学科	6	53		318		1.05	1.02		昭和42年度		
薬学部					学士(薬学)					福岡県福岡市東区馬出2丁目1番1号	
創薬科学科	4	49		196	学士(薬学)	1.07	1.04		平成18年度		
臨床薬学科	6	30		180		1.03	1.01		平成18年度		
工学部					学士(工学)					福岡県福岡市西区元岡744	
電気情報工学科	4	153		612				令和3年度	令和3年度		
材料工学科	4	53		212				令和3年度	令和3年度		
応用化学科	4	72		288				令和3年度	令和3年度		
化学工学科	4	38		152				令和3年度	令和3年度		

			3年次							
融合基礎工学科	4	57	20	268				令和3年度	令和3年度	
機械工学科	4	135		540				令和3年度	令和3年度	
航空宇宙工学科	4	29		116				令和3年度	令和3年度	
量子物理工学科	4	38		152				令和3年度	令和3年度	
船舶海洋工学科	4	34		136				令和3年度	令和3年度	
地球資源システム工学科	4	34		136				令和3年度	令和3年度	
土木工学科	4	77		308				令和3年度	令和3年度	
建築学科	4	58		232				令和3年度	令和3年度	
建築学科	4	-		-					昭和29年度	令和3年度より学生募集停止
電気情報工学科	4	-		-					平成8年度	令和3年度より学生募集停止
物質科学工学科	4	-		-					平成9年度	令和3年度より学生募集停止
地球環境工学科	4	-		-					平成10年度	令和3年度より学生募集停止
エネルギー科学科	4	-		-					平成10年度	令和3年度より学生募集停止
機械航空工学科	4	-		-					平成11年度	令和3年度より学生募集停止
芸術工学部					学士(芸術工学)					福岡県福岡市南区塩原4丁目9番1号
芸術工学科	4	187		748		1.11	1.07	令和2年度	令和2年度	
農学部					学士(農学)					福岡県福岡市西区元岡744
生物資源環境学科	4	226		904		1.09	1.05	平成10年度		
大学全体	-	2,549	70	10,663						

- (注)・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)。  
 なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
- ・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定してください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「-」とした上で、「非表示」設定してください。
  - ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
  - ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
  - 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
  - ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
  - ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
  - 開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。
  - 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和7年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
  - ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
  - なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
  - ・「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
  - また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。
  - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。
  - ・「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

5 教員組織の状況

<大学院芸術工学府 芸術工学専攻（博士後期課程）>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等									
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	谷 正和 <令和4年4月> Doctor of Philosophy (アメリカ)	専	教授	谷 正和 <令和4年4月> Doctor of Philosophy (アメリカ)						
		リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ						
専	教授	伊藤 裕之 <令和4年4月> 博士(文学)※									
		リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ
専	教授	井上 滋樹 <令和4年4月> 博士(芸術工学)									
		リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ
専	教授	伊原 久裕 <令和4年4月> 博士(芸術工学)	専	教授	伊原 久裕 <令和4年4月> 博士(芸術工学)	専	教授	伊原 久裕 <令和4年4月> 博士(芸術工学)			
		リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ			
専	教授	鵜飼 哲矢 <令和4年4月> 修士(工学)									
		リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ
専	教授	大井 尚行 <令和4年4月> 工学博士									
		リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	尾方 義人 ＜令和4年4月＞ 博士(工学)	専	教授	専	教授	尾方 義人 ＜令和4年4月＞ 博士(工学)	専	教授	尾方 義人 ＜令和4年4月＞ 博士(工学)
		リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ					リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ
専	教授	尾本 章 ＜令和4年4月＞ 博士(工学)	専	教授	専	教授	尾本 章 ＜令和4年4月＞ 博士(工学)	専	教授	尾本 章 ＜令和4年4月＞ 博士(工学)
		リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ					リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ
専	教授	包清 博之 ＜令和4年4月＞ 博士(農学)	専	教授			包清 博之 ＜令和4年4月＞ 博士(農学)			
		リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ					リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ			
専	教授	鐘木 時彦 ＜令和4年4月＞ 博士(芸術工学)	専	教授	専	教授	鐘木 時彦 ＜令和4年4月＞ 博士(芸術工学)	専	教授	鐘木 時彦 ＜令和4年4月＞ 博士(芸術工学)
		リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ					リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ
専	教授	金 大雄 ＜令和4年4月＞ 博士(芸術工学)	専	教授	専	教授	金 大雄 ＜令和4年4月＞ 博士(芸術工学)	専	教授	金 大雄 ＜令和4年4月＞ 博士(芸術工学)
		リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ					リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ
専	教授	古賀 徹 ＜令和4年4月＞ 博士(文学)※	専	教授	専	教授	古賀 徹 ＜令和4年4月＞ 博士(文学)※	専	教授	古賀 徹 ＜令和4年4月＞ 博士(文学)※
		リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ					リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ
専	教授	近藤(笠利) 加代子 ＜令和4年4月＞ 博士(工学)※	専	教授	専	教授	近藤(笠利) 加代子 ＜令和4年4月＞ 博士(工学)※	専	教授	近藤(笠利) 加代子 ＜令和4年4月＞ 博士(工学)※
		リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ					リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ



専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名
専	教授	前田 享史 ＜令和4年4月＞ 博士(医学) 博士(芸術工学)	専	教授	前田 享史 ＜令和4年4月＞ 博士(医学) 博士(芸術工学)	専	教授	前田 享史 ＜令和4年4月＞ 博士(医学) 博士(芸術工学)
		リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ						
専	教授	村木 里志 ＜令和4年4月＞ 博士(学術)	専	教授	村木 里志 ＜令和4年4月＞ 博士(学術)	専	教授	村木 里志 ＜令和4年4月＞ 博士(学術)
		リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ						
専	教授	Melanie Sarantou ＜令和5年4月＞ Doctorate (in Visual Arts) (オーストラリア)	専	教授	Melanie Sarantou ＜令和5年4月＞ Doctorate (in Visual Arts) (オーストラリア)	専	教授	Melanie Sarantou ＜令和5年4月＞ Doctorate (in Visual Arts) (オーストラリア)
		リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ						
専	教授	矢向 正人 ＜令和4年4月＞ 博士(学術)	専	教授	矢向 正人 ＜令和4年4月＞ 博士(学術)	専	教授	矢向 正人 ＜令和4年4月＞ 博士(学術)
		リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ						
専	准教授	秋田 直繁 ＜令和4年4月＞ 修士(芸術工学)	専	准教授	秋田 直繁 ＜令和4年4月＞ 修士(芸術工学)	専	准教授	秋田 直繁 ＜令和4年4月＞ 修士(芸術工学)
		リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ						
専	准教授	朝廣 和夫 ＜令和4年4月＞ 博士(芸術工学)	専	准教授	朝廣 和夫 ＜令和4年4月＞ 博士(芸術工学)	専	准教授	朝廣 和夫 ＜令和4年4月＞ 博士(芸術工学)
		リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ						









専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名
専	准教授	福島 綾子 <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授	専	准教授	専	准教授
		リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ						
専	准教授	藤 智亮 <令和4年4月> 博士(芸術工学)	専	准教授	専	准教授	専	教授
		リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ						リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ
			専	准教授	専	准教授	専	准教授
専	准教授	Hall Michael <令和4年4月> 博士(芸術工学)	専	准教授	専	准教授	専	准教授
		リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ						リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ
			専	准教授	専	准教授	専	准教授
専	准教授	松隈 浩之 <令和4年4月> 博士(芸術工学)	専	准教授	専	准教授	専	准教授
		リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ						リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ
専	准教授	松前 あかね <令和4年4月> 博士(知識科学) 法務博士(専門職)	専	准教授	専	准教授	専	准教授
		リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ						リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ



専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名
専	講師	今坂 智子 ＜令和4年4月＞ 博士(工学)	専	講師	今坂 智子 ＜令和4年4月＞ 博士(工学)	専	講師	今坂 智子 ＜令和4年4月＞ 博士(工学)
		リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ
専	講師	張 彦芳 ＜令和4年4月＞ 博士(芸術工学)	専	講師	張 彦芳 ＜令和4年4月＞ 博士(芸術工学)	専	准教授	張 彦芳 ＜令和5年10月＞ 博士(芸術工学)
		リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ
専	講師	西村 貴孝 ＜令和4年4月＞ 博士(芸術工学)	専	講師	西村 貴孝 ＜令和4年4月＞ 博士(芸術工学)	専	講師	西村 貴孝 ＜令和4年4月＞ 博士(芸術工学)
		リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ
						専	助教	井上 尚久 ＜令和5年4月＞ 博士(環境学)
								リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ
専	助教	川本 陽一 ＜令和4年4月＞ 博士(工学)	専	助教	川本 陽一 ＜令和4年4月＞ 博士(工学)	専	助教	川本 陽一 ＜令和4年4月＞ 博士(工学)
		リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ
専	助教	工藤 真生 ＜令和4年4月＞ 博士(デザイン学)	専	助教	工藤 真生 ＜令和4年4月＞ 博士(デザイン学)	専	助教	工藤 真生 ＜令和4年4月＞ 博士(デザイン学)
		リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ
専	助教	栗山 斉 ＜令和4年4月＞ 博士(美術)	専	准教授	栗山 斉 ＜令和4年4月＞ 博士(美術)	専	准教授	栗山 斉 ＜令和4年4月＞ 博士(美術)
		リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	
		担当授業科目名		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名	
				<b>追坪 知広</b> ＜令和4年4月＞ 修士(芸術工学)			<b>追坪 知広</b> ＜令和4年4月＞ 修士(芸術工学)			<b>追坪 知広</b> ＜令和4年4月＞ 修士(芸術工学)	
				リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ	
専	助教	澤井 賢一 ＜令和4年4月＞ 博士(情報理工学)	専	助教	澤井 賢一 ＜令和4年4月＞ 博士(情報理工学)	専	助教	澤井 賢一 ＜令和4年4月＞ 博士(情報理工学)	専	助教	澤井 賢一 ＜令和4年4月＞ 博士(情報理工学)
				リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ	
										<b>嶋崎 礼</b> ＜令和6年4月＞ 博士(工学)	
										リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ	
専	助教	関 元秀 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)	専	助教	関 元秀 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)	専	助教	関 元秀 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)	専	助教	関 元秀 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
				リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ	
専	助教	Jamieson Daryl Steven ＜令和4年4月＞Doctor of Philosophy in Music (イギリス)	専	助教	Jamieson Daryl Steven ＜令和4年4月＞Doctor of Philosophy in Music (イギリス)	専	助教	Jamieson Daryl Steven ＜令和4年4月＞Doctor of Philosophy in Music (イギリス)	専	助教	Jamieson Daryl Steven ＜令和4年4月＞Doctor of Philosophy in Music (イギリス)
				リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ	
										<b>菅村 みずき</b> ＜令和6年4月＞ 博士(音楽学)	
										リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ	
										<b>藤(北崎) 紀里子</b> ＜令和4年4月＞ 修士(芸術工学)	
										リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ	



専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名
専	助教	吉村 理一 <令和4年4月> 修士(文学)						
		リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ						
専	助教	Loh Ping Yeap <令和4年4月> 博士(工学)	専	助教	Loh Ping Yeap <令和4年4月> 博士(工学)	専	助教	Loh Ping Yeap <令和4年4月> 博士(工学)
		リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ
			専	助教	Loh Wei Leong <令和4年4月> 博士(芸術工学)	専	助教	Loh Wei Leong <令和4年4月> 博士(芸術工学)
					リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ
兼任	教授	樋口 重和 <令和4年4月> 博士(芸術工学)	兼任	教授	樋口 重和 <令和4年4月> 博士(芸術工学)	兼任	教授	樋口 重和 <令和4年4月> 博士(芸術工学)
		リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ
兼任	准教授	池田 美奈子 <令和4年4月> 修士(美術)	兼任	准教授	池田 美奈子 <令和4年4月> 修士(美術)	兼任	准教授	池田 美奈子 <令和4年4月> 修士(美術)
		リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ
兼任	准教授	曾我部 春香 <令和4年4月> 博士(芸術工学)	兼任	准教授	曾我部 春香 <令和4年4月> 博士(芸術工学)	兼任	准教授	曾我部 春香 <令和4年4月> 博士(芸術工学)
		リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
			兼任	講師	土屋 潤 <令和4年4月> 博士(工学)	専	講師	土屋 潤 <令和4年4月> 博士(工学)	専	講師	土屋 潤 <令和4年4月> 博士(工学)
					リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ
			兼任	助教	元村 祐貴 <令和4年4月> 博士(感性学)	兼任	助教	元村 祐貴 <令和4年4月> 博士(感性学)	兼任	助教	元村 祐貴 <令和4年4月> 博士(感性学)
					リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ			リサーチ研修Ⅰ リサーチ研修Ⅱ リサーチプロジェクトⅠ リサーチプロジェクトⅡ リサーチプロジェクトⅢ

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。
- ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
  - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください。
  - ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。
  - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)を

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和4年度】

- ・秋田直繁准教授、追坪知広助教、Loh Wei Leong助教、土屋潤講師、元村祐貴助教が博士後期課程の研究指導ができるようになったため追加
- ・栗山助教が准教授に昇任した。
- ・田村准教授が芸術工学府専任教員から統合新領域学府の専任教員に変更した。
- ・令和3年7月に何 昕雲准教授が就任した。
- ・令和3年10月に牧野 豊准教授が就任した。
- ・令和3年6月に中村 恭子助教が就任した。
- ・令和4年3月31日付けで一身上の都合により吉村理一助教が退職したため、後任を選定予定。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅰ」の担当に、秋田准教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅱ」の担当に、秋田准教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅠ」の担当に、秋田准教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅡ」の担当に、秋田准教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅢ」の担当に、秋田准教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅰ」の担当に、何准教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅱ」の担当に、何准教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅠ」の担当に、何准教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅡ」の担当に、何准教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅢ」の担当に、何准教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅰ」の担当に、牧野准教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅱ」の担当に、牧野准教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅠ」の担当に、牧野准教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅡ」の担当に、牧野准教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅢ」の担当に、牧野准教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅰ」の担当に、追坪助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅱ」の担当に、追坪助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅠ」の担当に、追坪助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅡ」の担当に、追坪助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅢ」の担当に、追坪助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅰ」の担当に、中村助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅱ」の担当に、中村助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅠ」の担当に、中村助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅡ」の担当に、中村助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅢ」の担当に、中村助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅰ」の担当に、Loh Wei Leong助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅱ」の担当に、Loh Wei Leong助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅠ」の担当に、Loh Wei Leong助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅡ」の担当に、Loh Wei Leong助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅢ」の担当に、Loh Wei Leong助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅰ」の担当に、土屋講師を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅱ」の担当に、土屋講師を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅠ」の担当に、土屋講師を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅡ」の担当に、土屋講師を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅢ」の担当に、土屋講師を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅰ」の担当に、元村助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅱ」の担当に、元村助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅠ」の担当に、元村助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅡ」の担当に、元村助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅢ」の担当に、元村助教を追加。

【令和5年度】

- ・令和5年3月31日付けで谷正和教授、包清博之教授、矢向正人教授が定年退職した。
- ・令和5年3月31日付けで一身上の都合により中村恭子助教が退職したため、後任を選定予定。
- ・令和5年4月1日付けで張彦芳講師が特定プロジェクト教員として採用されたため、専任教員から外れた。
- ・長津結一郎准教授、齋藤一哉准教授、藤（北崎）紀里子助教が博士後期課程の研究指導ができるようになったため追加
- ・冬野美晴助教が准教授に昇任した。
- ・岐阜俊哉准教授、藤智亮准教授、吉岡智和准教授、田村良一准教授が教授に昇任した。
- ・土屋潤准教授が統合新領域学府の専任教員から芸術工学府の専任教員に変更した。
- ・令和4年10月に結城円准教授が就任した。
- ・令和5年4月にMelanie Sarantou教授、井上尚久助教、蓮尾絵美助教、LI ZILONG助教が就任した。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅰ」の担当に、Melanie Sarantou教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅱ」の担当に、Melanie Sarantou教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅠ」の担当に、Melanie Sarantou教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅡ」の担当に、Melanie Sarantou教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅢ」の担当に、Melanie Sarantou教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅰ」の担当に、齋藤一哉准教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅱ」の担当に、齋藤一哉准教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅠ」の担当に、齋藤一哉准教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅡ」の担当に、齋藤一哉准教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅢ」の担当に、齋藤一哉准教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅰ」の担当に、長津結一郎准教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅱ」の担当に、長津結一郎准教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅠ」の担当に、長津結一郎准教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅡ」の担当に、長津結一郎准教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅢ」の担当に、長津結一郎准教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅰ」の担当に、結城円准教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅱ」の担当に、結城円准教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅠ」の担当に、結城円准教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅡ」の担当に、結城円准教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅢ」の担当に、結城円准教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅰ」の担当に、井上尚久助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅱ」の担当に、井上尚久助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅠ」の担当に、井上尚久助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅡ」の担当に、井上尚久助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅢ」の担当に、井上尚久助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅰ」の担当に、藤（北崎）紀里子助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅱ」の担当に、藤（北崎）紀里子助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅠ」の担当に、藤（北崎）紀里子助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅡ」の担当に、藤（北崎）紀里子助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅢ」の担当に、藤（北崎）紀里子助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅰ」の担当に、蓮尾絵美助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅱ」の担当に、蓮尾絵美助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅠ」の担当に、蓮尾絵美助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅡ」の担当に、蓮尾絵美助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅢ」の担当に、蓮尾絵美助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅰ」の担当に、LI ZILONG助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅱ」の担当に、LI ZILONG助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅠ」の担当に、LI ZILONG助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅡ」の担当に、LI ZILONG助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅢ」の担当に、LI ZILONG助教を追加。

【令和6年度】

- ・令和5年5月31日付けで一身上の都合によりLI ZILONG助教が退職したため。後任を選定予定。
- ・令和5年6月1日付けで西村英伍助教が就任した。
- ・令和5年7月1日付けで朝廣和夫准教授、中村美亜准教授が教授に昇任した。
- ・令和5年10月1日付けで張彦芳准教授が就任した。
- ・令和5年12月1日付けで森本有紀助教が准教授に昇任した。
- ・令和6年1月1日付けで高田正幸准教授が教授に昇任した。
- ・令和6年3月1日付けで横谷奈歩助教が就任した。
- ・令和6年3月1日付けで西村貴孝講師が准教授に昇任した。
- ・令和6年3月31日付けで伊原久裕教授、Hall Michael准教授が定年退職した。
- ・令和6年3月31日付けで一身上の都合により池田美奈子が退職したため。後任を選定予定。
- ・令和6年4月1日付けで港岳彦教授、野村勝久准教授、嶋崎礼助教及び曾村みずき助教が就任した。
- ・令和6年4月1日付けで杉本美貴准教授が教授に昇任した。
- ・令和6年5月1日付けで羽山康之助教が就任した。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅰ」の担当に、港岳彦教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅱ」の担当に、港岳彦教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅠ」の担当に、港岳彦教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅡ」の担当に、港岳彦教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅢ」の担当に、港岳彦教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅰ」の担当に、野村勝久准教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅱ」の担当に、野村勝久准教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅠ」の担当に、野村勝久准教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅡ」の担当に、野村勝久准教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅢ」の担当に、野村勝久准教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅰ」の担当に、張彦芳准教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅱ」の担当に、張彦芳准教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅠ」の担当に、張彦芳准教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅡ」の担当に、張彦芳准教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅢ」の担当に、張彦芳准教授を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅰ」の担当に、嶋崎礼助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅱ」の担当に、嶋崎礼助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅠ」の担当に、嶋崎礼助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅡ」の担当に、嶋崎礼助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅢ」の担当に、嶋崎礼助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅰ」の担当に、曾村みずき助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅱ」の担当に、曾村みずき助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅠ」の担当に、曾村みずき助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅡ」の担当に、曾村みずき助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅢ」の担当に、曾村みずき助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅰ」の担当に、西村英伍助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅱ」の担当に、西村英伍助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅠ」の担当に、西村英伍助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅡ」の担当に、西村英伍助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅢ」の担当に、西村英伍助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅰ」の担当に、羽山康之助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅱ」の担当に、羽山康之助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅠ」の担当に、羽山康之助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅡ」の担当に、羽山康之助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅢ」の担当に、羽山康之助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅰ」の担当に、横谷奈歩助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチ研修Ⅱ」の担当に、横谷奈歩助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅠ」の担当に、横谷奈歩助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅡ」の担当に、横谷奈歩助教を追加。
- ・教育効果を高めるため、「リサーチプロジェクトⅢ」の担当に、横谷奈歩助教を追加。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（A C教員審査）を受けてください。**原則としてA C教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ A C教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和5年度開設であれば令和4年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
10	7	0
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件(平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号)により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在(報告時)の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
19	34	3	11	67	0	28	38	2	16	84	0
(23)	(35)	(3)	(11)	(72)	0						
研究指導教員数		研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数		研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
うち教授数			うち教授数								
46	18	21	21			56	26	28	28		
(50)	(22)	(22)	(22)			(10)	(8)	(7)	(7)		
現在(報告時)の完成年度時の状況						現在(報告時)の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
28	38	2	16	84	0	28	38	2	16	84	0
[9]	[4]	[Δ1]	[5]	[17]	[0]	[9]	[4]	[Δ1]	[5]	[17]	[0]
研究指導教員数		研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数		研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
うち教授数			うち教授数								
56	26	28	28			56	26	28	28		
[10]	[8]	[7]	[7]			[10]	[8]	[7]	[7]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在(報告時)の状況」には、報告年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。  
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、教員審査を要審査済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、  
 [ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: Δ1)  
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、  
 [ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: Δ1)

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢(歳)	報告時(上記(B)の教員のうち、定年を延長して採用している教員数)	完成年度時(上記(C)の教員のうち、定年を延長して採用する教員数)
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{84}{67} = \boxed{125.37} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在(報告時)の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{0}{84} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
1	助教	吉村 理一	R4.3	必修	リサーチ研修Ⅰ	①	R4.4.1付で学内の他部署（言語文化研究院）に採用されたため就任辞退（4）						
				必修	リサーチ研修Ⅱ	①							
				必修	リサーチプロジェクトⅠ	①							
				必修	リサーチプロジェクトⅡ	①							
				必修	リサーチプロジェクトⅢ	①							
合計（D）						後任補充状況の集計（E）							
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)						
1	人	必修	5	科目	必修	5	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	5	科目	計	5	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
1	講師	張 彦芳	R5.3	必修	リサーチ研修Ⅰ	①	R5.4.1付で本部署特定プロジェクト教員に採用されたため就任辞退（5）						
				必修	リサーチ研修Ⅱ	①							
				必修	リサーチプロジェクトⅠ	①							
				必修	リサーチプロジェクトⅡ	①							
				必修	リサーチプロジェクトⅢ	①							
2	助教	中村 恭子	R5.3	必修	リサーチ研修Ⅰ	①	R5.4.1付で他大学（大阪大学中之島芸術センター）に採用されたため就任辞退（5）						
				必修	リサーチ研修Ⅱ	①							
				必修	リサーチプロジェクトⅠ	①							
				必修	リサーチプロジェクトⅡ	①							
				必修	リサーチプロジェクトⅢ	①							
3	助教	LI ZILONG	R5.5	必修	リサーチ研修Ⅰ	①	R5.5.31付で帰国のため就任辞退（6）						
				必修	リサーチ研修Ⅱ	①							
				必修	リサーチプロジェクトⅠ	①							
				必修	リサーチプロジェクトⅡ	①							
合計（F）						後任補充状況の集計（G）							
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)						
3	人	必修	15	科目	必修	15	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	15	科目	計	15	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について、記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)		後任補充状況の集計 (E) + (G)										
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)	①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)								
4	必修	20	科目	必修	20	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	20	科目	計	20	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{4}{67} = 5.97\%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 令和5年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

1 人

(注)・(3) -①、(3) -②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。  
 ・令和6年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。

(3) -⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
1	教授	谷 正和	必修	リサーチ研修Ⅰ	①	R5.3.31付け65歳で定年退職(5)	
			必修	リサーチ研修Ⅱ	①		
			必修	リサーチプロジェクトⅠ	①		
			必修	リサーチプロジェクトⅡ	①		
2	教授	包清 博之	必修	リサーチ研修Ⅰ	①	R5.3.31付け65歳で定年退職(5)	
			必修	リサーチプロジェクトⅠ	①		
			必修	リサーチプロジェクトⅡ	①		
			必修	リサーチプロジェクトⅢ	①		
3	教授	矢向 正人	必修	リサーチ研修Ⅰ	①	R5.3.31付け65歳で定年退職(5)	
			必修	リサーチ研修Ⅱ	①		
			必修	リサーチプロジェクトⅠ	①		
			必修	リサーチプロジェクトⅡ	①		
4	教授	伊原 久裕	必修	リサーチ研修Ⅰ	①	R6.3.31付け65歳で定年退職(6)	
			必修	リサーチ研修Ⅱ	①		
			必修	リサーチプロジェクトⅠ	①		
			必修	リサーチプロジェクトⅡ	①		
5	准教授	HALL MICHAEL	必修	リサーチ研修Ⅰ	①	R6.3.31付け65歳で定年退職(6)	
			必修	リサーチ研修Ⅱ	①		
			必修	リサーチプロジェクトⅠ	①		
			必修	リサーチプロジェクトⅡ	①		
合計			後任補充状況の集計				
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)	①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
5	人	必修	25 科目	必修	25 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	25 科目	計	25 科目	計	0 科目

(注)・定年により退職した全ての専任教員について、記入してください。  
 ・昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び( )書きで報告年度を記入してください。  
 ・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する(している)場合は「①」  
 ・兼任担当教員が担当する(している)場合は「②」  
 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

学生の履修などへの影響が極力ないように、将来を見越した教員の人事計画を行う方針である。  
 授業の担当教員の変更については、学生用ポータルサイトでの通知および学生向けWebサイトに掲載の時間割等により、適宜、学生に周知する。

(注)・上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

## 6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時  (令和3年)	ストラテジックデザインコースの教育目標に照らし、起業・実践のための方法論に資する経営学が学修できるよう、教育課程の内容を充実させること。	【事前相談(国立)】遵守事項  コースコア科目や展開科目を、具体的な事例検討や実践的なワークショップ等を通じて履修することで、起業・実践のための方法論に資する経営学が学修できる教育課程としている	履行中

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。
    - 【令和5年度報告書から記載内容に変更がある場合】  
令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「(5)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(6)」と記載してください。
    - 【令和5年度報告書から記載内容に変更がない場合】  
令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「(5) (6)」と記載してください。
    - 【令和6年度から新たに調査対象となった学科等又は令和5年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】  
「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(6)」と記載してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

## 7 その他全般的事項

<大学院芸術工学府 芸術工学専攻（博士後期課程）>

### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
特になし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>1) 教育企画委員会【全学】</p> <p>2) 外国人アドバイザーグループ（SIAG）【全学】</p> <p>3) 芸術工学府においては、教授会の下に置く学務専門委員会においてFDに関する検討を行っている。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>1) 教育企画委員会【全学】 10回（4/14、5/16、6/9、7/13～27（書面）、10/13、11/14、12/15、1/16、2/13、3/18）</p> <p>2) 外国人アドバイザーグループ（SIAG）【全学】 4回</p> <p>3) 学務専門委員会については、令和5年度は11回開催（臨時でメール回議16回開催）しており、研究院長、学務担当副研究院長及び学部各学科・学府各コースから選出された委員の合計13名が参加している。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>1) 教育企画委員会【全学】 ・FDに係る企画、実施及び支援に関すること。</p> <p>2) 外国人アドバイザーグループ（SIAG）【全学】 ・スーパーグローバル大学創成支援「戦略的改革で未来へ進化するトップグローバル研究・教育拠点創成（SHARE-Q）」事業で推進する本学の国際化等に関すること。</p> <p>3) 学務専門委員会：芸術工学部及び大学院芸術工学府の教育課程に関すること 芸術工学部及び大学院芸術工学府の学生に係る厚生補導に関すること 芸術工学部及び大学院芸術工学府の入学選抜に関すること FDに係る企画、実施及び支援に関すること 学生アンケートに関すること</p>
---

## ② 実施状況

### a 実施内容

- ・ 新任教員FD
- ・ M2B講習会「M2Bシステムの使い方～Moodleのバージョンアップによる変更点を中心に紹介します～」
- ・ GakuNin RDMデータ活用セミナー これからの研究データ管理を探る
- ・ IDE大学セミナー「地域創生で変わる学生の学び」
- ・ 全学FD「M2Bシステムの使い方」
- ・ 外国人教員アドバイザーグループ (SIAG) による企画・運営のもと、外国人教員間の情報共有及び日本人教員とのネットワークの構築を目的として、英語によるFD (FD in English:FDE) をシリーズで開催している。

### b 実施方法

- ・ Zoom、Teams、Webexを使用したオンライン形式
- ・ 対面とオンライン形式を併用したハイブリット形式
- ・ オンデマンド形式
- ・ テーマに合わせて、パネルディスカッション、ワークショップ等の形式で実施している。令和5年度はハイブリッド及びオンラインにて実施。

### c 開催状況 (教員の参加状況含む)

- ・ 新任教員FD (4/10: 115名)
- ・ M2B講習会「M2Bシステムの使い方～Moodleのバージョンアップによる変更点を中心に紹介します～」 (9/13: 140名)
- ・ GakuNin RDMデータ活用セミナー これからの研究データ管理を探る (11/16: 94名)
- ・ IDE大学セミナー「地域創生で変わる学生の学び」 (12/2: 96名)
- ・ 全学FD「M2Bシステムの使い方」 (3/8～3/31オンデマンド: 95名)
- ・ Navigating the Undergraduate Classroom Strategies, Tips & Lessons from the Field (6/1: 24名)
- ・ Succeeding in academic careers in Japan (9/27: 20名)
- ・ Attracting global talent and making Kyushu University internationally competitive (1/25: 20名)

### d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

学習支援システムを利用して授業を行う教員の増加や、新たな教育の質向上プログラムを実施するなど、様々な改善を行っている。

## ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

### a 実施の有無及び実施時期

芸術工学府においては、各学期の終了時（春学期、夏学期、秋学期、冬学期）に実施している。

### b 教員や学生への公開状況、方法等

芸術工学府においては、授業評価アンケートの集計結果を学務専門委員会に報告している。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。  
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

芸術工学府では、博士後期課程においてこれまで設けていた選抜区分（一般選抜、社会人選抜、留学生選抜）を一本化した。また、入学試験を年2回（6～7月頃、12～1月頃）実施し、春入学及び秋入学を指定して受験できる制度を全面的に導入する（以前は芸術工学府デザイン人間科学国際コース博士後期課程のみ導入）。これにより優秀な海外からの留学生や実務経験が豊富な社会人学生に対応している。

志願者には出願前に主指導希望教員と相談するよう指示し、研究計画の実現可能性や希望指導教員の研究の専門性や方向性を確認することを求めており、一方、主指導希望教員はその機会を通して志願者の研究能力を確認するとともに研究計画を精査し、指導可能かどうかを判断している。これにより、「指導教員グループ」による研究指導体制を事前に準備し、円滑に研究が開始できる体制につなげている。

また、博士後期課程の教育課程においては、学部段階で培われた芸術工学の強い土台、修士課程で修得した領域融合型の学習と専門性の高い学習及び様々な領域との協力などの経験を基礎として、さらに自らの研究分野に関連した卓越した専門知識と技能を獲得するためのカリキュラムを提供している。このカリキュラムは、修士課程と同様に、デザインに対する課題は現実社会から発せられるため、ほとんどの場合「分野横断的」であり、本課程においては、デザイン学の分野をリードする指導的立場の研究者を養成することを目的として大学院教育を行い、その内容は主に独自の研究を遂行するためのものとなる。この博士研究も、より融合的、横断的である方がデザイン学の総合性を発揮するものとなる。このため、博士後期課程の研究指導は一つの研究室を越えた複数指導体制を構築し、分野横断的な研究を指導、推進している。

博士後期課程では、上記のような単位化しない博士論文研究指導のほか、博士論文作成に必要な調査・実験・考察などを自ら能動的に行える能力を身に付けさせるための「論文作成関連科目」と、指導教員グループにより研究指導を行う「研究指導科目」の2つの科目群で教育課程を編成している。

これらの科目は全て英語対応とし、優秀な外国人留学生を獲得できるようにしており、このことは日本人にとっても大きなメリットである。外国人留学生と共に講義を受け、英語で討議することにより、国際通用性のある学術リテラシーを涵養していくという目的の達成に向け、順調に進捗している。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和6年4月以降 公表予定

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

令和3年度に評価機関である大学改革支援・学位授与機構による認証評価を受審した。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和6年度）

a 公表予定の有無 [  有 ・  無 ]

≪ a で「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期  調査結果公表後1ヶ月以内 ・  公表後2～3ヶ月以内 ・  公表後3ヶ月以降 ]

c 公表方法  ウェブサイトへの掲載 ・  その他 ( ) ]

≪ a で公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 [ ( ) ]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。